

## 第三者評価結果報告書

### 《総括》

対象事業所名	横浜みなとみらい保育園
経営主体(法人等)	社会福祉法人 長幼会
対象サービス	保育所
事業所住所等	〒220-0011 横浜市西区高島 2-7-1 ファーストプレイス横浜 302
設立年月日	平成 20 年 4 月 1 日
評価実施期間	平成 27 年 8 月 ~28 年 3 月
公表年月	平成 28 年 3 月
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
評価項目	横浜市版

### 総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）

#### ●横浜みなとみらい保育園の立地・概要

・横浜みなとみらい保育園は、横浜駅から徒歩5分、横浜のウォーターフロント計画により造成された地域にあり、歴史と共に商業ビルと超高層住宅の建設が進み、利便性に恵まれた立地にあります。園の徒歩圏内には多くの公園もあり、帷子川、石崎川沿いには美しい桜並木があり、四季折々の自然が感じられます。歴史と未来を馳せる地に、園舎内のデザインや色彩には想いが彩られ、未来を担う子どもは、利便性の良さと、残された事前を享受しています。

・横浜みなとみらい保育園の経営母体は社会福祉法人長幼会であり、横浜みなとみらい保育園を含めて4園を運営しており、他系列園は自然の豊かな環境に位置し、活発な交流の中で、畑で芋ほりを一緒に楽しめる面も1つのメリットになっています。

・横浜みなとみらい保育園の定員は120名の大規模保育園であり、各年齢、20名定員で、現在は134名を受け入れています。特に、0歳児の定員20名は非常に多い定員数ですが、常に定員は満員の状況であり、0歳児では担当保育士7名と補助職員1名の計8名でローテーションを配置し、保育にあたっています。1歳児は緩和の枠を含めて現在、22名の園児が通園し、2歳児以上は、空きが出ない限り入園は難しい状況にあり、地域の保育ニーズの高さがうかがえます。園舎は、ファーストプレイスビルの商業棟の3階に位置し、L字型の配置となっており、玄関を入れて右側に保育室が並ぶ構造となっています。保育室は奥から順番に0歳児から5歳児の順に保育室が配置され、一番手前には一時保育室を設けています。その手前はステージを設けた多目的ホールがあり、雨の日の体操や、発表会など有効に活用しています。屋上には広い園庭があり、砂場もあり、プールの設置も可能で、プランターでの栽培も積極的に行っています。屋上で子どもたちは元気にボールゲームをして遊んでいます。

#### ●横浜みなとみらいの保育の方針

横浜みなとみらい保育園は保育目標に、『思いやりのある、たくましい子どもの育成』を掲げ、子ども間の年齢の枠を超えた交流や触れ合い体験、遊びや季節行事等を通して人間形成の基礎となる「思いやりの気持ち」や「心身ともにたくましい子ども」の育成

に取り組んでいます。さらに、家庭や地域社会との連携を密にして、子どもの人権を守り、真心と愛情をもって子育て支援に努めています。目指す子ども像として、「たくましい子」(社会性、自立心)、「仲良くする子」(優しさ)、「よく考える子」(自発性・知的好奇心)に置き、日常生活に必要な基本的生活習慣を身に付け、心身の健康の基礎を培い、生命の保持および情緒の安定を図ることや、周りの人との触れ合いの中から思いやる道徳性を培い、周りの自然に興味を持って接し、動植物と仲良しになれる態度を養い、表現する態度を身に付けることを目標に、職員は保育に取り組んでいます。園では、安全・安心を心がけ、地域の子育て支援としての施設を目指し、触れ合いを通じた豊かな保育を展開しています。

## 《特によいと思う点》

### 1. 食育の推進

横浜みなとみらい保育園では食育に力を入れて取り組んでいます。食は子どもの成長にとって非常に重要な部分を占めています。園では厨房の設備を備え、完全給食の提供により、アレルギー除去食や宗教に係る対応食などにも対応しています。食育の取り組みでは、各年齢に応じて、食物の「栽培」から大切に捉えて取り組み、プランターで野菜を育て、生長を観察し、調理体験や、野菜の皮むきなどのお手伝いを通して「食」への興味・関心につなげています。栽培については、1歳児からプランターでキュウリやトマト、オクラ等の栽培体験をし、5歳児は園庭で稲の栽培を行い、収穫の喜びを味わい、収穫した野菜は給食で提供しています。今年度も系列園との交流も兼ね、4歳、5歳児は畑での植え付けや収穫体験を行いました。また、系列園の「すくすく保育園」(横浜市都筑区)が提携している畑で芋掘りを経験し、子どもたちが掘ったさつま芋をみんなで美味しく食べ、蔓は持ち帰り、蔓を乾燥させてリースを制作する予定です。クッキング保育も2歳児から取り入れ、食材の素材に触れ、調理までの過程を知ること、食に関心・興味が持てるようにしています。1歳クラスでは野菜(ソラマメや玉ねぎ等)の皮むきを栄養士や調理師も一緒に楽しく行っています。また、献立に行事食を取り入れ、季節や行事を感じ取れるように食事の雰囲気大切に、美味しく楽しく食せるように工夫しています。保護者へは、給食試食会を実施し、栄養士も参加して保護者から直接質問を受ける機会を設け、レシピを配布する等、家庭での食育につなげる取り組みにも力を入れています。

### 2. 地域子育て支援の推進

横浜みなとみらい保育園は、西区の子育て支援会議(基本的には認可園の園長会議であり、保育室、無認可園も参加し連携を図っている)に参加し、他施設との情報交換や情報を共有し、地域の子育て支援ニーズを把握し、地域に貢献しています。西区には公立園は1施設(南浅間保育園)であり、南浅間保育園が中心となって講習会等を行っていますが、園でも西区未就園児の育児講座を実施しています。区民まつりの「桜フェスタ」に参加して交流を図り、地域の子育て支援に協力しています。園では、子育て支援情報のチラシを玄関に置き、育児講座の開催やお話会、人形劇の観劇への参加の呼びかけを行い、園の行事である夏祭りや運動会への参加も積極的に受け入れています。夏の打ち水大作戦では地域の親子を招き、好評を得ています。また、2歳児クラスでは、毎年、

地域の未就園児との交流保育を実施しています。さらに、子育て支援事業として一時保育や園庭開放（夏はプール遊び）等を行い、一時保育では19名の受け入れに対し、登録者数は300名を超えている現状があり、ニーズが高いことを受け、他施設と協力し、合同育児講座に職員を派遣し、地域の親子とふれあい遊びや育児相談等の支援を行っています。地域の子育て支援に精力的に取り組み、推進に尽力しています。

### 3. 系列園との交流

横浜みなとみらい保育園を経営する社会福祉法人長幼会では4つの保育園を経営し、4つの保育園は設立の経緯が全く異なる園です。第1番目に設立された「すくすく保育園」は自然豊かな横浜市北部に位置し、母体の水野クリニックが近隣にあり、隣には同法人の高齢者施設もあり、自然、環境、関連施設に恵まれた保育園です。2番目の千丸台保育園は横浜市立保育園の民営化保育園で、旧団地内に広い敷地と四季折々の緑に囲まれた保育園です。3番目のここ横浜みなとみらい保育園は、横浜駅至近の近代的商業地にある未来型の保育園であり、4番目の玉川保育園は多摩川に近い川崎市立保育園の民営化保育園です。設立も環境も全く異なる系列園は、注目に値します。姉妹園を系列に持つ園は沢山ありますが、各々の園の特徴を活用して連携し、活動しているケースは稀であり、特に、子どもの交流は今後の子どもの成長に大いにプラスになります。社会性を学び得る機会と、集団の中で一緒に活動し協働することにより基本的な生活技術が身に付き、何より、基本的な考え方、感じ方を共有することができる体験を通して、子どもの信頼感や安定感を生み、自信につながる取り組みであると考えます。益々の推進を期待しています

## 〈さらなる期待がされる点〉

### 1. さらなる職員の質の向上

横浜みなとみらい保育園では保育の質の向上を目指し、取り組んでいます。園内研修の充実、系列園との交流を通じて、職員は常に研鑽を継続しています。昨今の配慮を要する子どもの増加、社会情勢の変化、総合子ども園や小規模保育事業などの保育政策の大幅な変化、市立保育園の民営化とそれに伴うネットワーク化など、保育を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。「保育」そのものに止まらず周辺環境の状況把握が望まれる今日です。横浜みなとみらい保育園では、さらに園内研修の充実を図り、外部委託による研修企画を計画予定であり、園全体で共有化を図り、日々の保育に活用するよう計画中心とかがいきました。専門職として常に新しい知識を学ぶ活動を展開される中、職員の一層の研鑽を期待いたしております。